

小学校 社会科6年授業実践報告

社会科授業づくりの基礎・基本 ～自ら調べ、考え表現しながら、社会認識を深める学習活動の工夫～

をテーマにして「社会科は、何を、どう、教えるか」をおさえ、小単元の学習指導案を作成する手順を考え授業実践に取り組んだ（平成24年1月23日）都内区立小学校6年生の事例を紹介します。

I はじめに

6年生の3つのクラスは、小単元名「世界の人々とともに生きる」として、3クラスとも小単元目標を

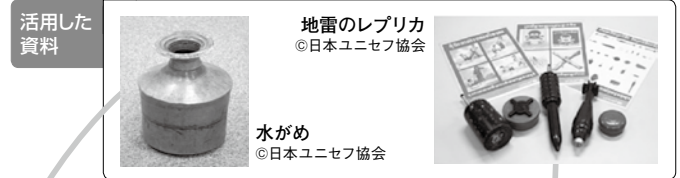
- 世界の平和や環境を守るための諸活動を知り、国際社会における日本の役割や、今後の課題について理解している。
- 世界における課題に関心をもち、それらの現状や解決のためのさまざまな取り組みに対して、意欲的に調べることができる。

と設定した。また、国際的な諸問題の対策を講じる各団体や事例を絞って調べ、実際の活動の様子や状況を学び、国際連合の働きについて理解するとともに、世界平和の大切さや、国際社会における日本の役割をとらえ、国際社会に参加していこうとする意識もつきかけとさせたいと願った。6年1組では、全7時間扱いの4時間目の授業で、ユニセフの活動を行っている人からの話を聞くことを取り入れ授業を行った。

II 本時の指導（4/7時間）構成

(1)ねらい：ユニセフの活動を聞いて、すべての子どもの命や権利を守るための取り組みの重要性や、国際社会協力の必要性をつかむことができるようにする。

(2)展開



学習活動／○発問と指示／予想される児童の反応	資料	○習得活用のポイント／◆評価
<p>1、資料を見て、世界の子どもたちが置かれている状況について知る。</p> <p>○世界の子どもたちは、誰でも、学校に通ったり好きなことを楽しんだりできているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行けない子がいると思うよ。 ・飢えに苦しんでいる子がいるよ。 ・病気で亡くなっている子もいるよ。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">子どもたちの命や権利を守るために、どのような活動が行われているだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の子どもたちの写真 ・開発途上国の子どもたちの写真 	<p>○事前に日本ユニセフ協会から借りたユニセフの活動のDVDとユニセフ手帳を見せておく。</p> <p>○ユニセフの活動の意義を実感させるために、困難な状況におかれている子どもたちの実態を資料からつかませる。</p>
<p>2、日本ユニセフ協会の方の話を聞いて、子どもたちを救うために、どのような活動が行われているか考える。</p> <p>○今日は、日本ユニセフ協会の方が来てくれました。話を聞いて学習しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニセフは、世界のいろいろな国に行っているんだ。 ・ユニセフって様々な活動をしているんだね。 ・ユニセフのような活動は必要だね。 ・世界中の人々が、募金をしてユニセフの活動を支えているんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水がめ ・蚊帳 ・地雷模型 	<p>○日本ユニセフ協会の方に来ていただいて、世界の現状やユニセフの活動について話をしてもらい、活動について具体的に理解させる。</p> <p>○写真や映像資料だけでなく、統計数値や分布状況なども合わせて示し、多面的な資料から事実を的確にとらえることができるようにする。</p>
<p>3、ユニセフの役割や自分たちにできることについて考える。</p> <p>○お話を聞いてユニセフの役割や自分たちにできることについて考えて書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニセフの活動は、支援の必要な国にとっては大切なんだね。 ・募金をすることで活動に参加することができるんだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニセフから援助を受けている写真 ・統計資料 ・分布資料 	<p>○資料から、自分たちの行動も支援につながることを確認させる。</p> <p>◆国際連合の機関であるユニセフの活動について、重要性や必要性を理解している。（知識・理解）</p>
<p>4、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・募金のできる支援の例の資料 	<p>[発言・ノート]</p>

III 本時での工夫

(1)活動のポイント：具体的な活動の様子についての話を聞くことで、活動についてより身近に感じることができ、興味・関心を高められるようにする。また、実際に活動にかかわっている人の思いを直接聞くことで、自分たちにできることを考えるきっかけにする。

(2)教師の働きかけの工夫：ゲストティーチャーと事前に打ち合わせを行い、児童に習得させたい言葉について確認をする。そして、習得させたい語句や重要語句をカードにして掲示することで視覚的にとらえさせる。

IV まとめ

ゲストティーチャー（日本ユニセフ協会の方）と事前に打ち合わせを行い、授業の流れや児童に習得させたい言葉の確認などを行ったことは当日の授業のスムーズな展開につながった。また、当日の授業に来ていただき、世界の子どもの現状やユニセフの活動について具体的な話を聞くことができたことや、ネパールで実際に使われている水がめ、マラリアを防ぐ殺虫剤処理された蚊帳、地雷のレプリカなどを見聞したり体験したりしたことで、開発途上国の問題をより身近に感じるとともに明確にとらえることができた。